特化型のAIと汎用的なAI

1つの作業が得意なAIと、いろいろな作業をこなすAIは、何がちがうのだろう

特化型のAI

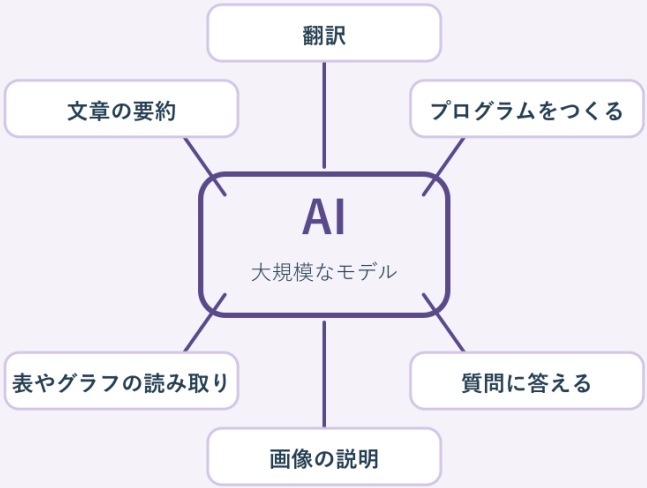
1つの作業のために学習したAI

- AI → 画像から病気の候補を見つける
- AI → 将棋や囲碁を指す
- AI → 声を文字にする
- AI → 迷惑メールを見分ける

◎ その作業では、高い性能を出す
△ ほかの作業はできない

汎用的な作業をこなす大規模なモデル

大量のデータで学んだ大きなモデル（基盤モデル）



◎ 指示によって、いろいろな作業をこなす
△ まちがえることがある（ハルシネーション）
△ 学んでいないこと・体を動かすことは苦手

人のように何でもできるAI

人と同じように、どんな問題でも自分で考えて解決するAI（汎用人工知能）は、まだ実現していない。

いつ実現するか、実現できるかは、専門家の間でも意見が分かれている。

注意
「何でもできる」「人を超えた」という言い方は、何ができて何ができないかを確かめて受け取る

使い分ける

決まった作業を正確にくり返すなら特化型、いろいろな作業の下書きや手伝いなら大規模なモデルが向く。
どちらも、学んだデータと目的によって得意・不得意がある。最後に判断するのは人。

※ 模式図。AIの例は代表的なもの。性能や呼び方は技術の進み方で変わる。